

(調査費)

第1321号
受 02.1.30 付
議会事務局

第1号様式・その1(第4条関係)

戸田市議会研修・視察報告書(会派名:日本共産党戸田市議団)

遠藤英樹 議長 様

報告者氏名

令和2年1月30日
土屋英美子

実施日	令和2年1月8日(水) ~ 令和2年1月8日(水)		泊日
参加者	1 花井伸子 6 2 本田哲 7 3 むひろ葉子 8 4 土屋英美子 9 5 10	合計 4人	
視察先・目的	視察先 1 戸田市立少年自然の家 2 多摩少年自然の家 3 川崎少年自然の家 4 板橋区少年自然の家 5 6	目的 廃止の方向を受け、建物の現状等、指定管理者より説明を受け、見学確認。 所長へのご好意により案内にて下りました。	
宿泊場所	1 2 3		
費用	宿泊費(泊食) 円	夕食代 円	
	交通費 44,470 円	昼食代 円	
	その他 3,500 円	合計 47,970 円	

(合計¥2,621の内¥3,500は計上)

富士見町・戸田市立少年自然の家を視察

日本共産党戸田市議団は1月8日（水）、戸田市立少年自然の家（長野県諏訪郡富士見町）を視察しました。少年自然の家は、八ヶ岳連峰を望み、入笠山麓の恵まれた自然環境の中にある、生涯学習施設です。昭和49年9月に自然環境の中で心身ともに健全な少年の育成を図ることを目的に設置されて以来、市内小中学校の林間学校やスキー実習の施設として長年利用されてきました。又青少年のスポーツ団体の合宿、職場の研修、家族連れの方等、自然とのふれあいを求め多くの人々が利用をしてきました。平成23年から指定管理者制度へ、移行され、長野県富士見町開発公社が指定管理を行っています。

戸田市では、公共施設再編プラン（平成29年3月策定）により同施設を「廃止を含め、民間施設の代替利用等について検討する」とし、本年度中に方針決定・制度設計、令和2年度は制度設計、令和3年度は方針に基づき事業実施、同年3月末をもって施設を廃止する方向です。

建物に入った瞬間、ピカピカに磨かれた床が目に入り、手入れがよく行き届いている事を実感しました。建物はコンパクトにできていて、宿泊する部屋は男女別の真ん中に先生の部屋があり、まとまりやすく何かあった時でも直ぐ対応できるとの事で、大変機能的にできていました。食堂、体育館の電球は計画的にLEDに変えて電気代の節約に努めている事、館長さん自ら資格を取得し、体育館の木製床を修繕、間伐材を利用してテーブルや椅子を作るなど、様々な努力がされていました。また、体育館の雨漏り等は地元の知り合いの建築業者仲間の力を借りて格安にやってもらう等、指定管理を受けている開発公社の方々が地元・富士見町を愛する気持ちがよく伝わってきました。

問題点としては、施設の手入れは行き届いてはいるものの、築45年が経っていることから、今後、配管の取り替えや下水処理施設の拡張等、課題が出てきている事でした。「少年自然の家」は戸田っ子が登山やキャンプファイヤー、スキー、星観察などを通して大自然の中で共同生活をする教育の場であると考えます。今後、民間施設を利用すると、13000円の費用が発生し、家庭の負担が大きすぎる事、自然の中で物づくりやキャンプファイヤーなどを通して共同生活が体験できなくなるなど、たくさん問題点が残ります。

視察後、他施設との比較をするため同指定管理者が管理運営している多摩少年自然の家（施設内・外）、川崎少年自然の家・板橋区立少年自然八ヶ岳荘（外観）を案内してくださり視察をしました。板橋区の少年自然の家が同様の経過から検討を重ね、廃止ではなく2019年から新装開館していることから、その検討状況を学ぶため2月6日に板橋区教育委員会を訪問する予定です。

日本共産党戸田市議団 文責 つちやえみこ

(調査費)

第1号様式・その1(第4条関係)

戸田市議会研修・視察報告書(会派名:日本共産党戸田市議団)



令和2年2月12日

手塚静枝 議長 様

報告者氏名

土屋 英美子

実施日	令和2年2月6日(木) ~ 令和2年2月6日(木)		泊日
参加者	1 花井伸子 6	2 本田哲 7	3 木村葉子 8
	4 土屋英美子 9	5 10	合計 4人
視察先・目的	視察先 1 東京都板橋区役所 2 生涯学習課 3 4 5 6	目的 板橋区立ハケ岳荘の リニューアルオープンの経過及び 概要についての説明	
宿泊場所	1 2 3		
費用	宿泊費(泊食) 円	夕食代 円	
	交通費 1,060 円	昼食代 円	
	その他 3,185 円	合計 4,545 円	

板橋区立少年自然の家「八ヶ岳荘」のリニューアルを学ぶ

日本共産党戸田市議団団長 花井伸子

2月6日（木）、2019年4月1日にリニューアルオープンした、板橋区立八ヶ岳荘の大規模改修の経過とその概要等を学ぶため、板橋区役所生涯学習課長水野博史様、生涯学習推進係の川上哲雄様からお話をお聞きしました。視察では冒頭に元山芳行区議会議長様から歓迎のご挨拶をいただきました。

今回の視察は戸田市立少年自然の家が築45年を経過し、老朽化と、市内の小中学校の児童・生徒数が年々増える中、施設の宿泊定員が200名であるために一度に宿泊することができず、現在、中学校3校で2班に分けてスキー教室を実施しており、今後、小学校の林間学校実施においても同様の状況が生じてくること等の問題から、様々検討した結果、戸田市立少年自然の家を廃止するとの結論に至り、2020年3月議会に戸田市立少年自然の家を廃止する条例を提案する予定であるとの説明が、2019年10月25日、2020年1月14日の文教・建設常任委員会で行われました。そのことから、日本共産党戸田市議団は、2020年1月8日に長野県富士見市の戸田市立少年自然の家を現地視察。また、同じ富士見市にある多摩市立八ヶ岳少年自然の家と板橋区立少年自然の家を視察しました。

今回、視察説明を受けた、板橋区立八ヶ岳荘は、戸田市立少年自然の家同様に老朽化による施設改修を迫られたことから、2014年度に八ヶ岳大規模改修検討委員会を設置（庁内検討会）、（1）八ヶ岳荘の機能、（2）施設機能の代替性①榛名林間学園との関係②民間施設の利用③他自治体との連携、（3）施設維持の経済性①施設運営経費②施設老朽化に伴う修繕経費、について検討がされた結果、施設規模や年間スケジュール、付帯設備等の面から、他の施設で移動教室事業を実施することは困難であるため、八ヶ岳荘は今後も存続させていくべきであり、施設を維持するための抜本的な改修工事を早急に行うことが必要であるとのまとめが報告されました。（検討の中では廃止という考えもあったが、教育的観点から残すことを英断したとのこと）。委員会での検討と並行して生涯学習課では学校の移動教室部会や様々な団体や区民等から意見を聴取、区民から「『一生に一度、学校の旅行しか行けない子どもがどのくらいいるか知っていますか』と問われたことが今でも胸に深く残っていて、林間学校から家に帰った時に家族に伝え、また行きたいという思いが、子どもから親へ、利用の循環として、ずっとつながっていく施設を作りたい」と考えたとのことです。民間施設の視察や野外宿泊場を整備することから、アウトドアメーカー等にも出かけるなど、都市生活では体験できない生活体験を基に新たな価値を創設する施設へリニューアルするという担当職員の熱い思いが伝わりました。以降、

2015年度から順次基本構想・計画、基本設計・実施設計（6458万円）が行われ、2018年度に大規模改修工事を実施（16億9581万円）、その他の経費をプラスして総額18億1500万円をかけて、2019年度4月1日からリニューアルオープンしました。リニューアルに向けてそのコンセプトをこれまでの児童・生徒の自然環境の中での集団生活の学びの場の提供から、利用者ターゲットをファミリー層やアクティブシニアなどの一般利用者へ広げた改修工事を実施しました。

工事中の1年間は移動教室担当の小中学校校長及び中学校校長と協議・検討を重ね代替施設利用を決め、旅行会社の提案を校長会で決定し志賀高原にある2つのホテルを期間中借り上げました。民間施設の宿泊料との差額1人10,000円は区で補助したそうです。

リニューアルオープンから1年、一般利用は1.6倍に、テント利用560人、アウトドアキッチンには3000人を超え、343%の利用料金収入（令和元年・1044万の利用料収益、目標は1500万円）があったそうです。満足度調査においても9割以上が使ってよかったと回答がされているとの説明でした。

区では建て替えに伴い区外利用者の料金を1.5倍（バーベキュー施設込み料金・大人3750円、こども1875円）に引き上げ、だれでも利用できる施設としてわかりやすい施設名とするため、少年自然の家を削除し「八ヶ岳荘」と名称変更する条例改正を実施、指定管理者はこれまで同様の指定管理者（指定管理用は約9000万円）で、より使い勝手の良い施設となるよう常に細かな打ち合わせを行い改善に努めているとのことでした。

また、参考として、戸田市立少年自然の家と大きく違うところは、板橋区の敷地の所有面積は約9700平米もあること、区内の中学校は春・秋の林間学校、冬のスキー教室、3期の中から選択して実施されているそうです。